

重点プロジェクト 1-1

文化芸術活動と鑑賞機会の確保

【現状と課題】

宗像市には文化の中核施設として宗像ユリックスがあり、多くの鑑賞型・体験型の事業が行われており、その事業内容は内外で高く評価されている。

しかし、宗像ユリックスは公共交通機関に乏しいため、市民が訪れるには不便な状況にあり、また、宗像ユリックス以外で市民が文化芸術に触れることのできる機会は少ない。

宗像ユリックスのアウトリーチ事業は、同施設を利用できない市民に本物の文化芸術を届けるために地域コミュニティの活動拠点である地域のコミュニティ・センターを中心に展開している。今後、より多くの市民に文化芸術に気軽に触れてもらうために、学校や福祉施設等、でもさらに広範囲に文化芸術鑑賞の機会を提供する必要がある。

【プロジェクトの目的・内容】

宗像ユリックスへの移動手段等の理由から文化芸術の鑑賞・体験機会が得にくいという課題を解決するために、住民に身近なコミュニティ・センターや学校、福祉施設等での文化芸術の鑑賞・体験機会の創出を行う。

【後期事業】

(1) 宗像ユリックスアウトリーチ事業

身近な場所で誰でも参加しやすい文化芸術の鑑賞・体験機会が生まれるようコミュニティ・センターや小・中学校、幼稚園・保育園、福祉施設等でアウトリーチ事業を実施する。

【協働の担い手】

市、民間団体（宗像ユリックス）を主軸に、市民等、民間団体（小・中学校、幼稚園・保育園、福祉施設等）との協働で行う。

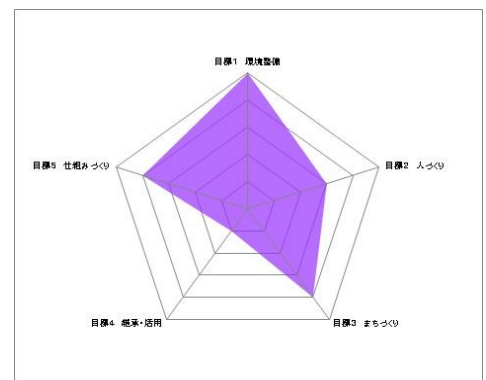


アウトリーチ（城山山頂）



アウトリーチ（赤間小）

他の目標との関連



重点プロジェクト 1-2

宗像ユリックスでの鑑賞機会の創出

【現状と課題】

宗像ユリックスでの文化事業の入場者数は、平成23年度から平成27年度までの前期5年間の平均は約55,000人で、10年ビジョンがスタートした平成23年度は54,000人となっており、ほぼ同数と伸びていない。

子どもの頃から文化芸術に触れることは、教育的観点から大変重要であるが、家庭環境により大きな差異が生じる状況にある。そこで、市は市内の全ての小学4年生が宗像ユリックスハーモニーホールでプロの音楽演奏を鑑賞するコンサートを平成23年から行っている。

今後、宗像ユリックスでより魅力のある文化事業を企画・実施し、子どもから大人までの鑑賞者数を増していくことが課題となっている。

【プロジェクトの目的・内容】

宗像の子どもたちが、小学生のうちに本物の文化芸術を鑑賞・体験する機会を創出するため、元気なまちづくり基金事業として、市内小学校4年生の児童が本格的な文化ホールを有する宗像ユリックスで、オーケストラ等による演奏や演劇など、本物の文化芸術に触れる。また、小学生に限らず、市民が宗像ユリックスに来館し、本物の文化芸術を体験・鑑賞する機会を提供する。

【後期事業】

(1) 宗像ユリックス文化芸術鑑賞事業

本物の文化芸術をより身近に感じるために、宗像ユリックスが主催・企画し、市民に魅力ある質の高い文化芸術事業を提供する。

(2) 小学4年生文化芸術鑑賞事業

市内小学4年生をバスで宗像ユリックスへ送迎し、文化芸術公演を実施する。事前に子どもは演者による鑑賞のポイントについての説明を受けるなど、更なる工夫を図り、より効果の高いものとする。

(3) 「大きなクスの木の下で」美術館展

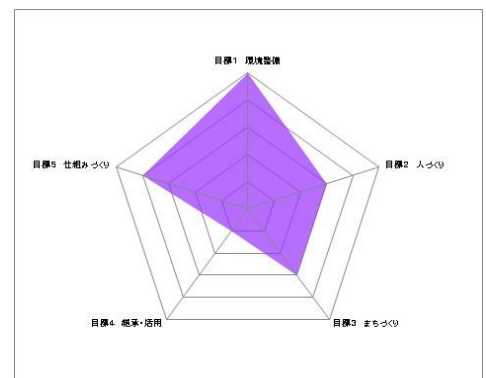
市民が本物の美術作品に気軽に触れる機会として「大きなクスの木の下で」美術館展を継続開催する。

【協働の担い手】

市、民間団体（宗像ユリックス）を主軸に、民間団体（小学校、企業等）との協働で行う。



他の目標との関連



小学4年生音楽鑑賞事業



「大きなクスの木の下で」美術館展

重点プロジェクト 1-3

文化芸術の体験機会の創出

【現状と課題】

学校における「学び」だけでなく、幅広い文化芸術に直接触れ、理解していくことは、心豊かに暮らしていくための知識や教養を身に付け、生涯を通じて学ぶ姿勢を持つことにもなる。平成21年から市内小学校を中心に宗像市文化協会から華道、茶道、箏（こと）・尺八等の日本の伝統文化の講師を派遣する「伝統文化次世代継承事業」を実施している。

また、アウトリーチ事業や「宗像ミアーレ音楽祭」での楽器体験、さらには、平成26年4月に宗像ユリックスで誕生した市内小学3～6年生で構成するユリックスジュニアブラスでの活動を通じて、日頃から音楽や楽器に触れる機会を提供している。

今後は、より幅広い世代の市民が文化芸術を体験できる機会の充実に努めていく。

しかしながら、小・中学校の授業やクラブ活動等の範疇にとどまっており、子どもが日常、継続的に活動していく後継者育成につなげられていない。

【プロジェクトの目的・内容】

市民が気軽に文化芸術に触れることができる機会を創出する。また、未来を担う子ども達が心身ともに成長し、思いやりの心や豊かな人間性を育むため、学校において、地域の文化や芸術を活かした体験学習の充実を図る。

【後期事業】

（1）伝統文化次世代継承事業

伝統文化出前授業、伝統文化体験プログラム等の伝統文化次世代継承事業を実施し、日本の伝統文化の体験機会の創出を図り、次世代の継承へつなげていく。

（2）音楽体験事業

アウトリーチ事業や「宗像ミアーレ音楽祭」の楽器体験や、平成26年4月に宗像ユリックスで誕生したユリックスジュニアブラスバンドの活動を通して、音楽を身近に感じる機会を提供する。

【協働の担い手】

市を主軸に、民間団体（小・中学校、宗像市文化協会等）との協働で行う。

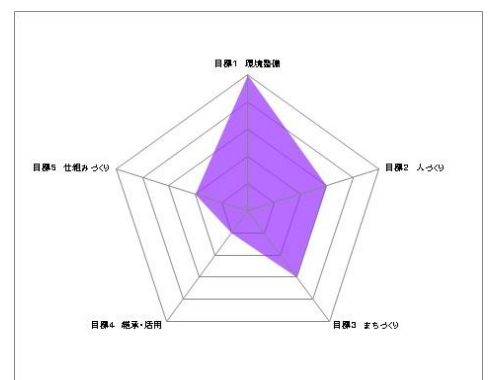


伝統文化次世代継承事業



伝統文化次世代継承事業

他の目標との関連



重点プロジェクト 2-1

市民文化芸術活動の発表機会の充実

【現状と課題】

毎年、宗像市文化協会・宗像市・宗像ユリックスが主催する四大文化事業として、6月には芸術祭を、7月には吹奏楽祭を、10月から11月までの期間は文化祭を、12月にはこども芸術祭を、宗像ユリックスで開催している。

また、平成25年度から毎年開催している宗像ミアーレ音楽祭では、市民ステージを設け、子どもから大人までの発表の機会を提供している。音楽以外の分野では、主には宗像ユリックスの市民ギャラリーで絵画展、写真展などが開催されている。

今後も宗像市文化協会に加盟する団体をはじめ、文化芸術活動を行う市民の成果の発表の場が求められている。

【プロジェクトの目的・内容】

市民による文化芸術活動が活発にできるよう、市民が主役となる文化芸術活動の発表機会の提供・支援を行う。

【後期事業】

(1) 四大文化事業の開催

宗像ユリックス及び市文化協会と連携し、芸術祭・吹奏楽祭・文化祭・こども芸術祭を開催し、子どもから大人まで日頃の活動を発表する場を提供する。

(2) 宗像ミアーレ音楽祭市民ステージの設置

宗像ミアーレ音楽祭において、市民ステージを設け、子どもから大人まで日頃の活動を発表する場を提供する。

(3) アマチュア団体・個人の発表の場の提供

四大文化事業や宗像ミアーレ音楽祭市民ステージ、宗像ユリックス市民ギャラリー以外にも、市内公共施設等で団体・個人が文化芸術の発表ができる新たな場の提供を検討する。

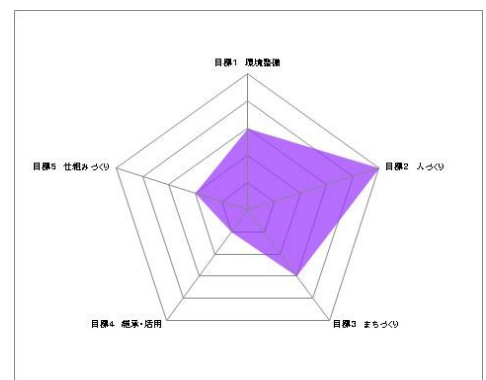
【協働の担い手】

市、民間団体（宗像ユリックス）を主軸に、市民等、民間団体（宗像市文化協会等）との協働で行う。



四大文化事業（こども芸術祭）

他の目標との関連



重点プロジェクト 2-2

若手芸術家の育成支援

【現状と課題】

文化施設の中核である宗像ユリックスは文化芸術の鑑賞の場として広く知られている。しかし、市内で活動する芸術家は少なく、芸術を志す市民は福岡市や東京などへ活動拠点を移しているのが現状である。市内在住の若手芸術家を支援することで、将来、国内外で活躍する文化芸術の担い手を育成するため、若手芸術家の活動におけるニーズを引き出し、より活動意欲の上がる場の提供又は創出を行う必要がある。

【プロジェクトの目的・内容】

市内の芸術家等を志す青少年の育成と支援を行い、学校や地域に質の高い文化芸術を届ける次世代の文化芸術の担い手を育成する。

【後期事業】

(1) 大学生のアウトリーチ出演

福岡教育大学と宗像ユリックスの連携協定を活用し、福岡教育大学芸術課程の学生や吹奏楽部の学生等を、市内で開催しているアウトリーチ事業に派遣する。

(2) 小学生音楽活動支援

平成26年4月に宗像ユリックスに誕生した市内小学生(3～6年生)で構成するジュニアプラスバンドに対し、九州交響楽団や九州管楽合奏団、福岡教育大学芸術課程を専攻する学生等が指導するなど活動を支援する。

(2) 吹奏楽部員音楽指導

九州交響楽団や九州管楽合奏団等のプロの演奏家が学校に出向き、市内の中学校や高校の吹奏楽部員に指導し、市内吹奏楽部のレベル向上を図る。

(3) 吹奏楽部員合宿クリニック

長期休暇等で合宿を開催し、九州管楽合奏団等のプロの指導者が市内吹奏楽部員を集中的に指導する。同じ目標を持つ部員同士の交流による刺激を促すとともに、合宿を通じて演奏技術の向上を図る。

【協働の担い手】

市・民間団体(宗像ユリックス)を主軸に、民間団体(小・中学校、高校、大学等)、第4の主体(招聘芸術家等)との協働で行う。

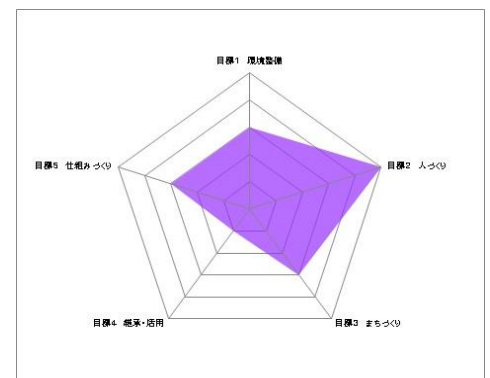


大学生アウトリーチ



小学生音楽活動支援
(ユリックスジュニアプラス)

他の目標との関連



重点プロジェクト 2-3

データベースの構築と拡大

【現状と課題】

平成25年度から実施してきた「宗像ミアーレ音楽祭」をはじめ、市や宗像ユリックスの文化事業を通して、市内の文化芸術団体の情報集約ができています。

約100団体の情報を集約・蓄積しているが、今後さまざまな事業に活用できるよう情報を整理する必要がある。

【プロジェクトの目的・内容】

市内の活動家、活動団体、活動内容を掘り起し、その収集に努める。また併せてその登録数の拡大も進め、他の重点プロジェクトとの連携活用を図る。

【後期事業】

(1) データベースの作成・活用

市・ユリックスの文化芸術事業に関わる個人及び団体の情報を集約し、さらにはデータベースの作成を行い、新規事業や他分野イベントにおいて活用を図る。

(2) データベースの拡大

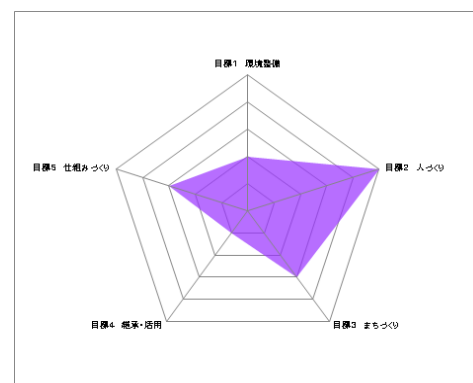
市・宗像ユリックス実施事業や文化芸術家が集う「交流サロン」を中心として、文化芸術事業に関わる個人及び団体の登録数の拡大を進める。

【協働の担い手】

市、民間団体（宗像ユリックス）を主軸に、市民等、民間団体（活動団体等）との協働で行う。



他の目標との関連



重点プロジェクト 2-4

ネットワーク形成の促進

【現状と課題】

市内の文化芸術活動家が集い、情報や悩みを共有するワークショップ（サロン）を開催し、ネットワークを形成しつつあるが、垣根を越えた分野でのネットワークの形成までには至っていない。また、平成25年度から開催しているユリックス・カフェの文化芸術団体によるワークショップでは、ジャンルを越えた連携やイベント同士のコラボレーションを行っている。

しかしながら、ネットワークを形成するための場づくりやきっかけづくりの提供が不十分であるため、新たな取り組みを生み出すまでに導くことができていない。

【プロジェクトの目的・内容】

文化芸術活動団体は単独で活動することが多いので、サロン等の交流の場を設置する回数を増やすなど、団体同士のネットワーク形成を促進する。そのことにより、ジャンルを越えた連携、新しい受け手との連携などから新しい文化芸術を創出する。

【後期事業】

（1）講演会や交流サロンの開催

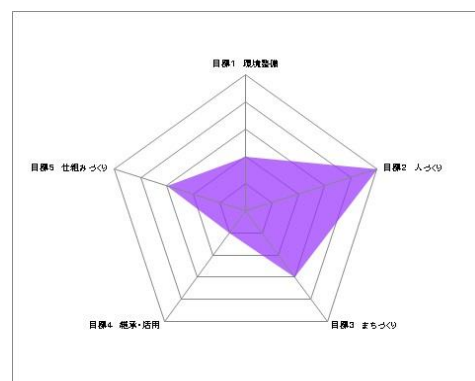
宗像ユリックス職員がコーディネーターの役割を担いながら、ネットワーク形成の促進に向け、プロの文化芸術の活動家や専門家を招いた「講演会」や市内の文化芸術関係者が集う「交流サロン」を開催する。

【協働の担い手】

市、民間団体（宗像ユリックス）を主軸に、市民等、民間団体（活動団体、外部講師等）との協働で行う。



他の目標との関連



重点プロジェクト 2-5

コーディネーターの養成と活用

【現状と課題】

これまで、宗像市では多くの市民等が文化芸術活動を行ってきた。しかし、個人や団体がそれぞれ単独で活動している状況が多かった。今後は、文化芸術の受け手と担い手、担い手同士をつなぐコーディネーターが必要となる。

コーディネーターが取り扱う文化芸術活動は大変幅広く、市民ニーズも子ども、高齢者、学校、福祉施設などその分野は多岐にわたる。各方面で活躍できるコーディネーターを養成し、データベースの活用やネットワーク形成の促進、文化芸術の他分野への活用をといったことを求められている。

【プロジェクトの目的・内容】

文化芸術の担い手と受け手、文化芸術と他分野など、宗像の文化芸術を「つなぐ」ために、コーディネーターを養成し、活用を図る。

【後期事業】

（１）コーディネーターの養成

市が求めるコーディネーター像を確立し、宗像ユリックスを中心として、市内外の人材を活用しながら養成を行う。

（２）コーディネーターの活用

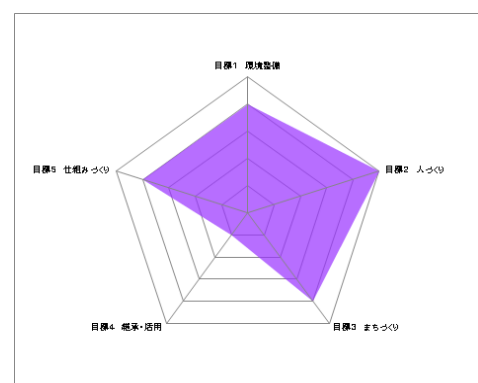
コーディネーターを核として、データベースの活用やネットワーク形成の促進、他分野への活用を図る。

【協働の担い手】

市、民間団体（宗像ユリックス）を主軸に、市民等、民間団体との協働で行う。



他の目標との関連



重点プロジェクト 3-1

文化芸術活動団体助成事業

【現状と課題】

宗像市は、平成23年度から文化芸術によるまちづくり、伝統文化継承、次世代育成などの活動を支援するため、最長3年間を上限として新たな補助制度「宗像市文化芸術活動事業補助金」制度を運用している。

平成23年度は6件、平成24年度は8件、平成25年度は11件、平成26年度は9件、平成27年度は5件であり、この補助制度の活用によって、多くの団体が活動の幅を広げる支援ができています。

【プロジェクトの目的・内容】

市民等や民間団体の文化芸術活動をまちづくりに活かすために、市の文化芸術の振興を目的とした活動に対して、資金面での支援を行う。

【後期事業】

(1) 文化芸術活動事業補助金

これまでの補助実績を踏まえ、補助金の見直しを行い、今まで以上に文化芸術活動団体が活動をしやすいものとし、助成事業を継続する。

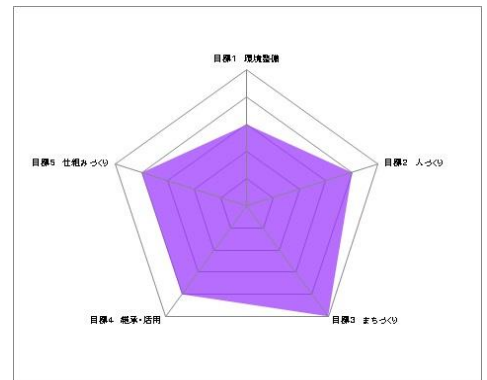
【協働の担い手】

市を主軸に、市民等、民間団体（活動団体等）との協働で行う。



文化芸術活動事業補助金
(吉武地域歴史・伝統文化保存会)

他の目標との関連



重点プロジェクト 3-2

国際交流を通じた文化芸術活動の促進

【現状と課題】

宗像市ではこれまで海外との文化芸術による国際交流を進め、現在では、姉妹都市や友好交流都市などとの間で、文化交流をはじめとしたさまざまな交流が行われている。

文化芸術における国際交流は、互いの違いや多様性を理解する上で大きな力となるだけでなく、個人の文化芸術活動に対して新たな刺激となることが期待される。また、国際交流を通して宗像市、広くは日本独自の文化芸術についての理解・認識を新たにすることは、市民の郷土に対する愛着を育むことにつながる。

さらに、2019年にはラグビーワールドカップ、2020年には東京オリンピック・パラリンピックといった大規模国際大会が日本で開催されることから、そのレガシーを継承・発展させていく「宗像版文化芸術国際交流プログラム」を策定し、国際交流を通じた文化芸術活動の推進が求められている。

【プロジェクトの目的・内容】

市の文化資源である宗像遺産や「宗像・沖ノ島と関連遺産群」、日本独自の文化芸術をテーマとした行政間や民間レベルでの国際交流を通じて、文化芸術活動を活発化させる。さらに、日本での大規模国際大会の開催を見据えて「宗像版文化芸術国際交流プログラム」を策定し、国際交流による市民の文化芸術活動を推進する。

【後期事業】

(1) 国際交流による文化芸術活動の促進

姉妹都市の大韓民国・金海市などと歴史・文化に関する行政間の交流を行う。また民間レベルでの国際交流を通じた市民の文化芸術活動の促進を図る。

(2) 大規模国際大会を契機とする「宗像版文化芸術国際交流プログラム」の策定と推進

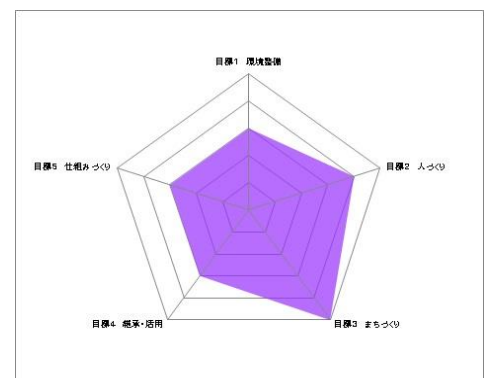
2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据えて、市民、アスリート等が交流する文化芸術プログラムを展開しながら、大会後もそのレガシーを継承発展させていくための「宗像版文化芸術国際交流プログラム」を策定する。

【協働の担い手】

市を主軸に、市民等、民間団体（活動団体、宗像ユリックス等）、第4の主体との協働で行う。



他の目標との関連



金海市大成洞古墳博物館の
市長表敬

重点プロジェクト 3-3

文化芸術の他分野への活用

【現状と課題】

現在、福祉や子育てで生じる地域の課題を文化芸術の力で解決する「文化芸術の他分野活用」が注目を浴びている。これまでの本市の取り組みとしては、平成26年度からアートサポートふくおかと共同で、市内の高齢者施設で文化芸術のワークショップを実施し、平成27年度までに10回開催している。実施に際しては、施設側の環境に課題があるものの、同時に理解も徐々に得ることができている。

アウトリーチ事業を通して、地域で孤立しがちな子育て世代を支援する「すくすくコンサート」は更なる内容の進化が必要である。さらに、障がい者については、文化芸術を通じた余暇の充実等を図っていく新たな取り組みが求められる。

それぞれの分野においては、今後本市が独自にプロジェクトを実施していくために、文化、福祉、子育て等の分野における高度な知識を持ったコーディネーターの養成や、アーティストの発掘・育成を行わなければならない。

【プロジェクトの目的・内容】

文化芸術が持つ力を子育て、福祉など他分野へ活用し、市民の豊かな心の醸成に貢献する。各分野での調査・研究を実施し、関係機関との連携を図りながら、市が独自にプロジェクトを推進するための体制・環境を整える。

【後期事業】

(1) 高齢者施設文化芸術ワークショップの開催

市内の高齢者を対象に、コーディネーターや福祉に長けたアーティスト、施設側の担当者等が協働でワークショップを開催する。

(2) 子育て文化芸術ワークショップの開催

コミュニティ・センターで行っている親子対象のアウトリーチ事業「すくすくコンサート」の内容拡充や、文化芸術を活かした子育て支援につながるワークショップを開催する。

(3) 障がい者を対象とした文化芸術活動の調査・研究

市内の障がい者を対象に、その障がいの程度に応じた文化芸術活動を推進するための環境整備や取り組みについて調査・研究を行う。その結果や過程を受け、関係機関と連携し、障がい者の文化芸術活動機会を創出する。

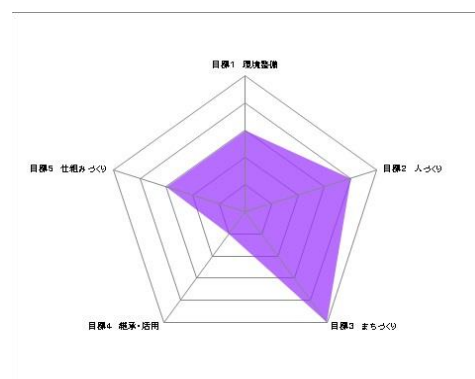
【協働の担い手】

市、民間団体（宗像ユリックス）を主軸に、市民等（コミュニティ）、民間団体（小学校、福祉施設等）との協働で行う



高齢者施設文化芸術ワークショップ（演劇）

他の目標との関連



重点プロジェクト 3-4

市の魅力となる文化芸術の創出

【現状と課題】

平成25年度の新市制10周年、宗像ユリックス開館25周年にあわせ、「宗像ミアーレ音楽祭～響きわたれ！おんがくの風～」を開催した。コンセプトは誰もが身近に音楽に親しみを持ち、また、参加することで、市全域が音楽であふれ、市民が『音楽』を通して一体感を共有し、宗像がもっと好きになることとし、翌年以降も継続開催し、「音楽があふれるまち・宗像」を進めている。

音楽祭は、アマチュア文化団体や子どもたちのステージからプロによる本格的なホールコンサートなど幅広いジャンルでのプログラムまでを提供している。2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、そのレガシーとなりうる音楽祭の新たな展開を図っていくことが求められる。

【プロジェクトの目的・内容】

「音楽があふれるまち・宗像」の中心的イベントである「宗像ミアーレ音楽祭」のステップアップを進めながら、市全域に舞台を広げていく。併せて、アマチュア音楽家の活動の場を提供するなど、新たな創造性を包括した取り組みを展開する。

【後期事業】

(1) 宗像ミアーレ音楽祭

検討から実施までを市民等、民間団体と協働で、単に聴くだけでなく市民参加型の市民力を結集した音楽祭として、宗像ユリックスをメイン会場として開催する。また、「宗像版文化芸術交流プログラム」の内容に沿った東京オリンピック・パラリンピック等の大規模国際大会のレガシーとなりうる音楽祭とする。

(2) 音楽があふれるまち・宗像

宗像ユリックスをはじめとして、コミュニティ・センターや学校、福祉施設等でアウトリーチ事業を展開するとともに、アマチュア音楽家が日常的に演奏できる場を提供する。

【協働の担い手】

市、民間団体（宗像ユリックス）を主軸に、市民等、民間団体（学校、活動団体等）との協働で行う。

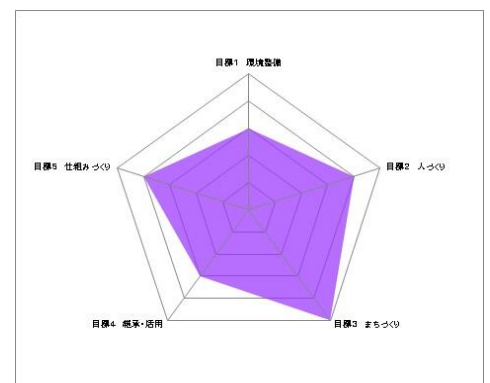


宗像ミアーレ音楽祭
(吹奏楽部生300人コンサート)



宗像ミアーレ音楽祭
(トワイライト・ピアノ・ライブ)

他の目標との関連



重点プロジェクト 4-1

文化財等の保存と活用

【現状と課題】

宗像市は、古代から中世、近世にかけての豊富な文化財に恵まれており、**特に古墳時代では、2,000を超える多くの古墳がある。**宗像人のルーツとして目される弥生時代の墳墓、集落遺跡である田熊石畑遺跡をはじめとして、**6世紀の装飾古墳のとして有名な**国史跡の桜京古墳、**沖ノ島を望む市指定史跡の田野瀬戸古墳など、**世界文化遺産**（予定）暫定リスト記載**の「沖ノ島祭祀」の担い手としての、ムナカタ族の隆盛が、色濃く残っている。

さらに、玄界灘を介した海に生きる人たちの生活の知恵などが、漁具や船大工の道具として、国の登録文化財に指定されるなど、**鐘崎が日本海海女の発祥の地として、**改めて注目されている。

宗像郡重要文化財共同収蔵庫に寄託されている国指定重要文化財2件と、今後、国指定重要文化財に昇格される可能性がある前述の漁労用具等をどのように収蔵、管理していくかが喫緊の課題となっている。

【プロジェクトの目的・内容】

いにしえより残る多くの歴史・文化を保存・活用するために、文化財指定及び整備を進めるとともに、既に指定されている田熊石畑遺跡の利活用を市民協働により進めていく。また、世界文化遺産**（予定）暫定リスト記載**の『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の構成資産も含め、学びの機会や歴史観光ルート**の設定などにより活用を図っていく。**の充実を図っていくとともに、国史跡の桜京古墳の保存・管理及び世界文化遺産構成資産と関連する遺跡等の学術調査や研究を進める。さらに、市が関与する国指定文化財及びそれに匹敵する文化財の適正収蔵及び復元・修復体制強化を図る。

【後期事業】

（1）田熊石畑遺跡等の史跡の整備、利活用

田熊石畑遺跡歴史公園では協働委託を行っている地元コミュニティや市民サポート団体と協議し、村っ子づくり事業を大幅に拡充させるなど、次世代の文化遺産の担い手づくりを進める。

~~（2）歴史観光周遊ルートの作成~~

~~関連部局と連携し、市全体としての周遊ルート策定を実施する。~~

~~（3）（2）文化財指定の推進~~

指定文化財候補の調査及び指定を行い、文化財の永続的保護を進める。

~~（4）（3）市が関与する文化財等の適正な収蔵、管理~~

文化財を保護していくために、市が関与する国指定文化財及びそれに匹敵する文化財を適正に収蔵するための対策を講じる。また、復元や修復作業を行うための設備の整備やその体制強化を図る。

（4）桜京古墳の保存・管理及び世界文化遺産関連遺跡等調査研究

国史跡桜京古墳の適正保存管理を計画的に行いながら、世界文化遺産に関連する玄海地域の遺跡等の学術調査や研究を進める。

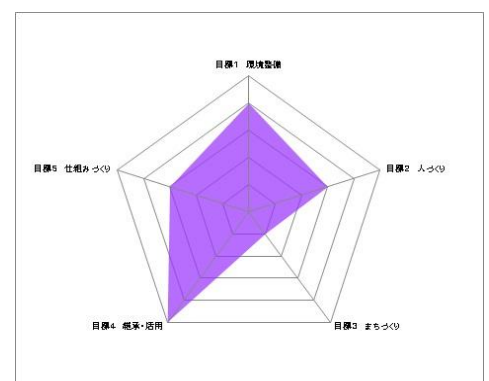
【協働の担い手】

市主軸に、市民等（コミュニティ）、民間団体（市民サポート団体等）との協働で行う。



宗像市田熊石畑遺跡歴史公園の全景

他の目標との関連



重点プロジェクト 4-2

郷土文化学習交流館（海の道むなかた館）の活用

【現状と課題】

宗像市では、歴史文化の継承の推進のため、民俗資料館等の文化財関係施設を統廃合整理し、郷土文化学習交流館（海の道むなかた館）として再整備を行った。平成24年度に開館し、年間来場者数は15万人を超えている。

海の道むなかた館は自然や歴史遺産を活用し、市民協働で郷土学習、人づくり、地域づくり、観光振興を行う拠点施設としての役割を担うものである。展示内容はパネルや3Dシアターで「宗像・沖ノ島と関連遺産群」のガイダンスを行うほか、宗像の自然や歴史遺産の紹介、特別展・企画展を開催している。

海の道むなかた館は、十分なバックヤードを備えていないことから大規模な展示が難しく、限られた展示スペースを有効活用するなどしており、施設としての発展性は限定的である。

【プロジェクトの目的・内容】

歴史文化の継承のため、自然や歴史文化遺産を結ぶ中核施設として、また、世界遺産のガイダンス施設としての機能を高めるため常設展示のリニューアルを図る。

【後期事業】

（1）各種企画展の実施・告知

魅力ある展示を企画し、広報掲載やコミュニティ、学校等へのチラシ配布、メディア・マスコミへの記者発表などの告知を進め、来館者増を図る。

（2）世界遺産コーナー及び常設展示のリニューアル

オープン5年目にあたって、平成29年度の世界遺産登録を見据え、同年度に世界遺産コーナー及び常設展示をリニューアルし、海の道むなかた館の魅力を向上させる。

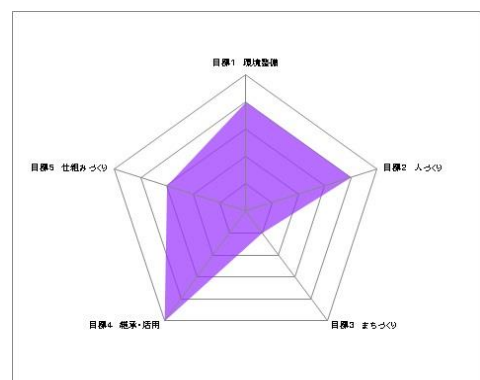
【協働の担い手】

市を主軸に、市民等、民間団体（学校等）との協働で行う。



海の道むなかた館常設展示

他の目標との関連



重点プロジェクト 4-3

文化芸術的資源の把握

【現状と課題】

宗像市の指定文化財には、国指定文化財 17 件、県指定文化財 21 件、市指定文化財 28 件の計 66 件が指定、国登録文化財 4 件が登録されている。文化財に指定されていない地域の文化芸術的資源にも、地域や生活の中に根づいている伝統行事や伝統芸能、食文化、言語など、個性豊かな文化が多数存在している。しかし、生活文化の変化に伴い、消失あるいは消失しつつあるものが多い。

そこで、文化芸術的資源の把握では、新修宗像市史編さんの市民調査員制度を活かして地元の人と地域の再発見を行う。

【プロジェクトの目的・内容】

文化財に指定されていない文化芸術的資源を調査し、継承・活用を図るため、新修宗像市史編さんで募集する市民調査員が、地元の人とともに地域の文化芸術的資源の再発見を行う。

【後期事業】

(1) 市民調査員制度（新修宗像市史編さん）

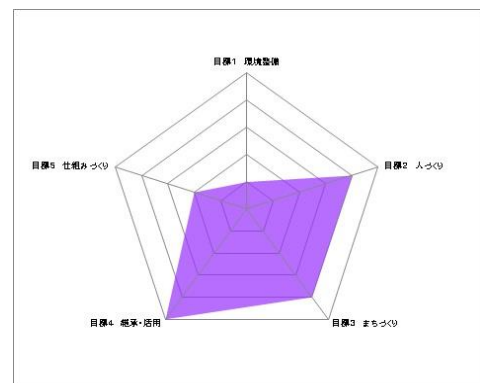
新修宗像市史編さんのため市民調査員を組織し、地域資源調査を実施する。

【協働の担い手】

市を主軸に、市民等との協働で行う。



他の目標との関連



重点プロジェクト 4-4

地域学芸員の養成

【現状と課題】

宗像市は、豊かな歴史遺産や自然環境に恵まれており、歴史観光ボランティアなどの活躍する場面が多い。このような中で、世界文化遺産国内推薦の決定、国史跡の田熊石畑遺跡歴史公園のオープン、平成24年度の郷土文化学習交流館（海の道むなかた館）の開館など、ますます市民協働による市民ボランティアの活動の場が拡大されている。

そのための核となる、海の道むなかた館を中心とした地域学芸員を養成し、現在約70人が登録しているが、今後の活動増加に伴うスキルアップが必要となる。

【プロジェクトの目的・内容】

地域学芸員は、市民からの募集により、地域学芸員養成のための講座を受講しており、海の道むなかた館等の展示企画、運営、歴史観光案内などの役割を担う。海の道むなかた館の活用では、市民協働による活動の中心となる地域学芸員の資質向上を図る。

【後期事業】

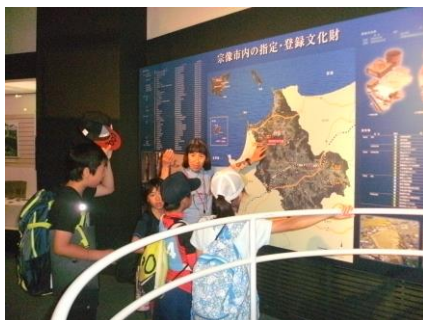
（1）地域学芸員の研修等の提供や活動支援支援、活躍の場の提供

世界遺産登録後、ますます活躍の場の増加が見込まれるため、地域学芸員養成中級・上級講座（初級・中級・上級）を実施するとともに、個別の研修会などを行い地域学芸員のスキルアップを図る。

また、海の道むなかた館を中心とする活動を充実させるとともに、活動領域を広げるための支援を行う。

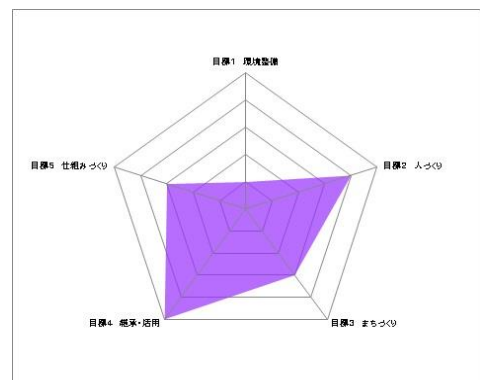
【協働の担い手】

市を主軸に、市民等との協働で行う。



小学生にガイドする地域学芸員

他の目標との関連



重点プロジェクト ５－１

元気なまちづくり基金の活用

【現状と課題】

文化芸術の振興を目的とした新たな基金として「元気なまちづくり基金」を創設し、10年ビジョンの初年度となる平成23年度から基金の運用を開始した。

現在、その果実を当ビジョンの重点プロジェクトに充てている。小学4年生文化芸術鑑賞事業がモデル事業から本事業となり、さらなる内容の充実が求められている。文化芸術活動団体助成事業の補助金申請は、件数及び補助金額ともに減少し、果実を十分に活用できていない。

【プロジェクトの目的・内容】

創設した元気なまちづくり基金の果実を活用し、ビジョンの重点プロジェクトに対しその推進を目的にする運用と、文化芸術に関する市民活動に対する活動助成を目的とした運用を行う。

【後期事業】

（１）基金果実有効活用

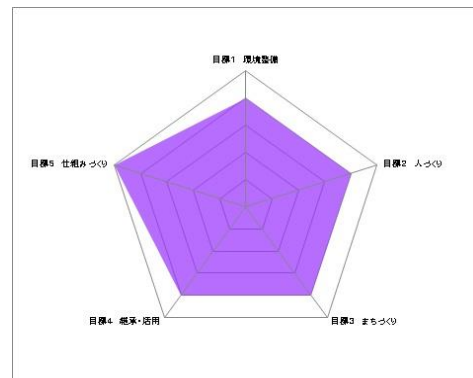
元気なまちづくり基金の果実を最大限に活用し、各重点プロジェクトのさらなる充実・改善を図るとともに、文化芸術に関する市民活動助成事業をより市民ニーズに対応できるよう見直しを行う。

【協働の担い手】

市が行う。



他の目標との関連



重点プロジェクト ５－２

宗像ユリックスの拠点機能強化

【現状と課題】

宗像ユリックスは文化芸術のシンボルとして整備され、年間９０万人を超える利用があり、当ビジョンにおいても文化の拠点としての中心的な役割を担っている。

市民と協働で文化芸術の振興を行うためには、専門的な知識を持った者が文化芸術に関する総合的な窓口として、市民等や民間団体に対する情報提供や相談対応等の市民活動の支援の充実を図る。平成３０年度からは指定管理者による管理は第４期を迎えることになるが、指定管理者の要件のなかで、文化芸術に対する専門知識とコーディネート能力の向上が求められる。

【プロジェクトの目的・内容】

宗像ユリックスは、本市の文化芸術の拠点施設として、機能や役割を更に高めることを目的に、専門組織やコーディネート能力面からの強化を図る。

【後期事業】

（１）文化芸術のまちづくり１０年ビジョンの推進

宗像ユリックスが文化芸術の拠点としてその中心的役割を担い、文化芸術のまちづくり１０年ビジョンを推進する。

（２）コーディネーターの養成

宗像ユリックスの第４期となる指定管理者の指定を見据え、外部研修や独自の養成により、本施設の職員の意識改革とコーディネーターとしての役割の強化を図る。

（３）相談窓口の開設

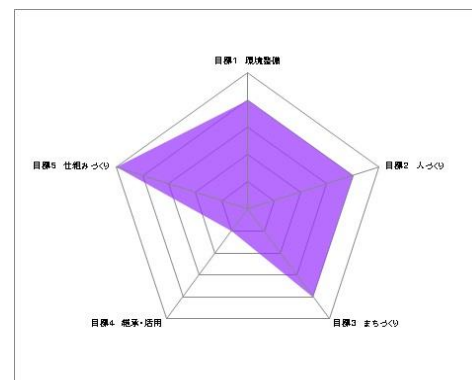
本施設の職員の専門性向上を図るとともに、市民文化芸術活動を支援するための相談窓口を開設する。

【協働の担い手】

市とユリックスの協働で行う



他の目標との関連



重点プロジェクト 5-3

文化芸術に関する学校・地域との連携

【現状と課題】

平成27年度から宗像ユリックスと各コミュニティ運営協議会の間で、アウトリーチ事業実施の連携・協力に関する覚書を締結し、アウトリーチ事業を実施している。さらには、市内幼稚園や小・中学校とも連携を図り、同事業を実施している。

また、同年度に宗像ユリックスと国立学校法人福岡教育大学の間で、連携・協力に関する協定を交わし、アウトリーチ事業に大学生が出演している。

宗像ユリックスと学校、地域との連携はほぼ確立されつつあるが、互いのニーズを満たしつつ、線から面への活動の広がりが求められる。

【プロジェクトの目的・内容】

宗像ユリックスと学校・地域との線の連携活動を、市全域の面の活動に広げていく。

【後期事業】

(1) 大学との協働・連携

①福岡教育大学を始めとする3大学が、公開講座の開催、専門家の派遣など、市で行う文化芸術活動に対して、協働の取り組みを行う。また、アウトリーチ事業の実施に際して、大学生を演奏者として派遣するなど連携を図る。

②子どもを対象としたアウトリーチ事業や小学4年生音楽鑑賞事業等の重点プロジェクトについては、福岡教育大学等と協働して教育的観点から効果を調査・研究する。

(2) 幼稚園・保育園・小学校・中学校・高校との連携

幼稚園、保育園、小学校、中学校でのアウトリーチ事業の実施、小学4年生文化芸術鑑賞の実施、宗像ミアーレ音楽祭への高校吹奏楽部の出演など、関係する重点プロジェクトを推進する上で、幼稚園・保育園・小学校・中学校・高校との連携を図る。

(3) コミュニティ運営協議会との連携

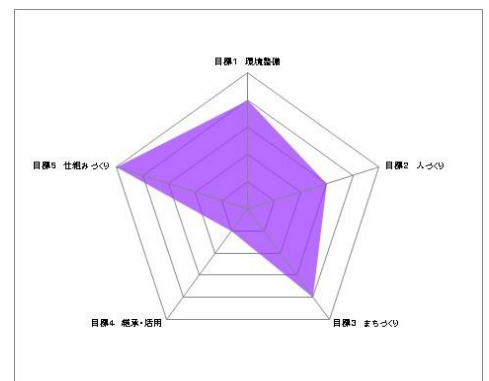
コミュニティ・センターでのアウトリーチ事業や宗像ミアーレ音楽祭でのコミュニティの参画など、コミュニティ運営協議会との連携を図る。

【協働の担い手】

市、宗像ユリックスを主軸に、市民（コミュニティ）、教育機関との協働で行う。



他の目標との関連



大学との協働

(福岡教育大学・ユリックス連携協定)



アウトリーチ (自由ヶ丘コミセン)

重点プロジェクト ５－４

１０年ビジョン検証・評価

【現状と課題】

ビジョンは数多くの重点プロジェクトから構成されており、客観的・多角的な視点からの個々のプロジェクトの検証・評価が必要である。

また、その検証・評価の結果を踏まえ、次期の１０年ビジョンを策定していく必要がある。

【プロジェクトの目的・内容】

「宗像市文化芸術のまちづくり１０年ビジョン検証評価委員会」を設置し、ビジョン目標達成のための後期ビジョンの取り組みにおける効果の検証・評価を行う。また、その結果を次期の１０年ビジョンにつなげていく。

【後期事業】

（１）１０年ビジョン検証評価委員会

１０年ビジョン検証評価委員会を設置し、平成３３年度以降の次期１０年ビジョンの策定に向け、後期ビジョンの取り組みにおける効果の検証・評価を行う。また、平成２８年から平成３２年までの１０年ビジョン全体を通して、検証・評価もあわせて行う。

【協働の担い手】

市、宗像ユリックスを主軸に、市民、教育機関、民間団体との協働で行う。



他の目標との関連

